



株式会社 ころぎ社

Type: 202107 -

コンサートビブラフォン

取扱説明書



Vibraphone User's Manual

対象機種

PV3000G

PV1000G

PV2000G

KV800G

PV2000GW

PV2000GL



Photo:PV2000GL



Photo:PV2000G

KOROGI
marimbas & xylophones

正しく安全にご使用頂くために まずお読みください

for safety .


この度は弊社商品をお買い上げ戴きまして誠に有難うございます。

本商品の特性を正しくご理解の上、末永くご愛用賜りますよう心よりお願い申し上げます。

開梱から組み立て、分解まで当説明書をご参考にして下さい。

尚、ご不明の点につきましてはお気軽にお問い合わせください。

(Tel: 本社 0778-34-2333 or ネオリア 03-5912-5880)

 株式会社 こおろぎ社



安全へのこころがけ

① 開梱上のご注意

- 梱包を受け取る時もしくは開く前に梱包が傷んでないかどうかをご確認ください。
内部に達するような損傷がある場合は配達者・運送会社もしくは弊社まで速やかにご連絡ください。
念のためその部分の写真を撮って頂くことをお願いします。
- 組み立て、分解には十分なスペースが必要です。開梱はこおろぎマークが上を向くようにして行います。
カッター等で浅く開梱部のクラフトテープを切ってください。
ダンボールの端で手を切ることがありますのでご注意ください。
梱包のまま全てのパーツを箱から取り出してください。
梱包の一部を開いてパーツ (P3/一覧) が揃っていることをご確認ください。 以下各ページの説明文をお読み下さい。

② 管理上のご注意

- 段差のあるところや階段の近くには出来るだけ置かないで下さい。設置後は必ずキャスターロックをしてください。
- 移動する場合、同じフロア上でもゆっくり動かすことが基本です。
段差やスロープがある場合は必ず複数の人で動かしてください。
共鳴管等が床や段差にぶつかると、キャスターや本体に予想外の力が加わり、転倒や破損の原因になります。
また、床と共鳴管の隙間に足を挟まないよう十分ご注意ください。
- 本体に乗らないこと。
音板の上に物を載せないこと (桁下がりの原因になります)。
- 火気・熱風に近づけるのは危険です。
- 音板が濡れた時には速やかに拭き取り、乾かして下さい (音程の悪化防止)。
- 音板に直射日光を当てないで下さい (ひび割れ防止)。
- 湿度は40～55%の範囲内で管理して頂くのが理想です。
湿度の高いところには長時間置かない様にして下さい。
音板は温度の変化には順応しますが、良く響くのは、おおよそ15℃～28℃の範囲です。
- 木の音板は1～2年かけて育てる (硬化・純化) のが最良です。
その間は表面を傷つけない様、適度な硬さのマレットで、満遍なく叩くことが望まれます。
- マレットは予想以上に、打撃が強く危険です。撥以外の用途には絶対に使用しないで下さい。

正しく安全にご使用頂くために
まずお読みください

for safety .



安全へのこころがけ

③ ビブラフォンのご使用について

- ビブラフォンをご使用になられるにあたって、下記の注意事項をよくお読みください。
お守りいただけない場合、火災、感電等、人体や周囲に重大な損害を与える恐れがあります。

- ビブラフォンのコントローラー部や電源部分を分解したり、改造したりしないでください。
- 次のような場所での使用はしないでください。
 - ◇温度が極端に高い場所や湿度の高い場所（風呂場、洗面所など）
 - ◇雨水のかかる場所、ほこりの多い場所、振動の多い場所
- 作動中の共鳴管のファンに触れないでください。手を挟まれることがあります。
- ペダルの下に足を入れないようご注意ください。
- 電源アダプターのコードをコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグ部分をお持ちください。
また、長時間使用しない場合は、プラグをコンセントから外してください。
- 電源アダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 電源アダプターの電源コードに無理に力を加えたり、上に重いものを載せたりしないでください。
- コントローラーや駆動部に、異物（燃えやすいもの、金属、液体など）を入れないでください。

- ご使用に関して、駆動・電源部分の破損や、異物の混入があった場合、
また、異音・異臭等が発生した場合は、直ちにご使用を中止していただき、
弊社までご連絡をお願いいたします。

- オプションの電池パックを用いてご使用になられる場合、乾電池の残量にはご注意ください。
電池が少なくなると、ファンの回転速度の低下や、動作が停止する場合がございます。
- 長時間で使用にならないときは、乾電池を本機から外しておいてください。



メンテナンス

- 弊社商品は無期限の修理を保障いたします（有償）。



パーツ一覧

Parts list



組み立ての際は十分なスペースを確保してください。
また以下の作業は2人で行うことをお勧めします。

最初にすべてのパーツが揃っている事をお確かめ下さい。

本体



音板2連(幹音・半音)



共鳴管



※PV2000GLはシャープアーチ型共鳴管

ダンパーロッド/ワイドペダル



※PV2000GLはワイヤー/回転式ペダル

2Way電源収納バッグ/AC電源アダプター
ブーリーベルト(2本)/単3乾電池ケースK9A-AA

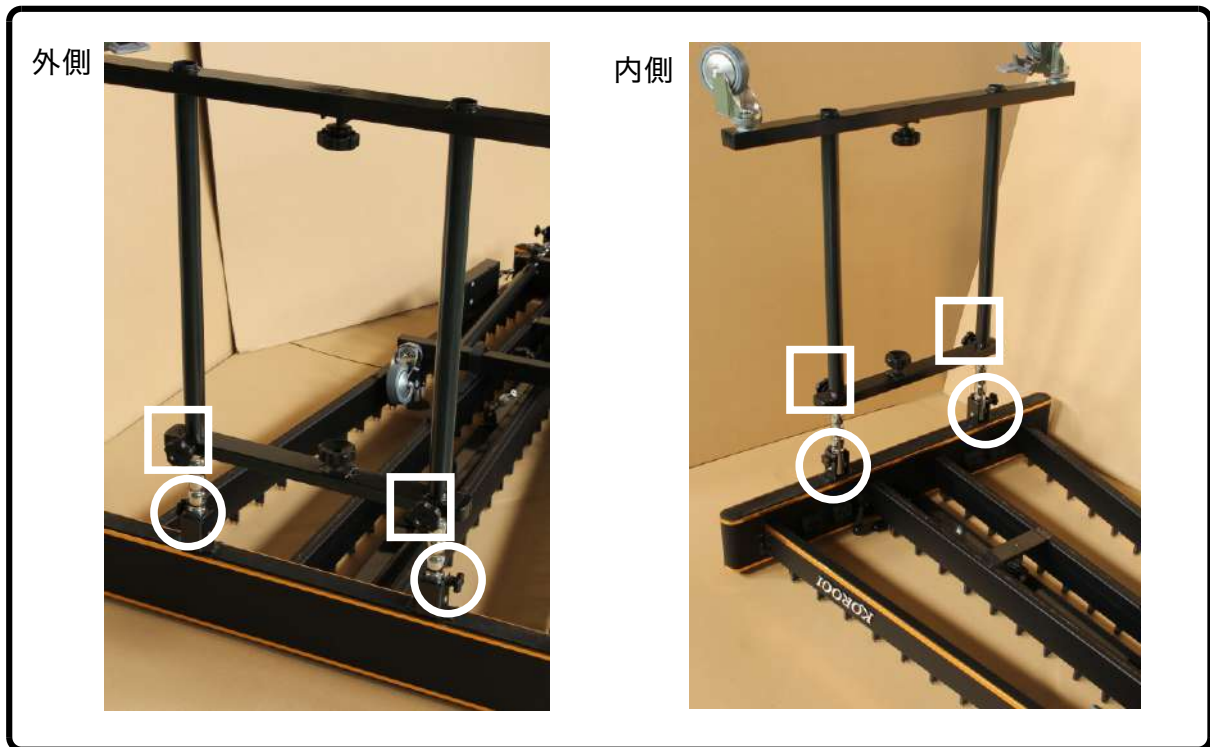


※付属品…マレット、トップカバー、取扱説明書(保証書)

1 本体部の脚組立

Assembly Method of Concert Vibraphone

1 本体部から脚を起しねじ締め



- 本体部の脚を上側に寝かせた状態から、低音側の脚を起し垂直にします。
- 垂直の状態でも印のノブねじを締め、脚が垂直の状態に保持されることを確認します。
- □印のノブねじを緩め、高さの調節を行います。黒い脚部分を掴んで上下動を行い高さを合わせた後、溝にしっかりと嵌まるようにノブねじを締めていきます。左右の位置が水平になるように注意してください。
 - ※ 溝は5段階あり、一番低い位置で全高77cm、高い位置で86.5cmとなります。
 - ※ PV2000GLは高さ固定型(84cm)のため溝はありません。
- 低音側と同じように、高音側も脚を垂直に起し、高さを調節します。低音側と同じ位置の溝に嵌めるように注意してください。

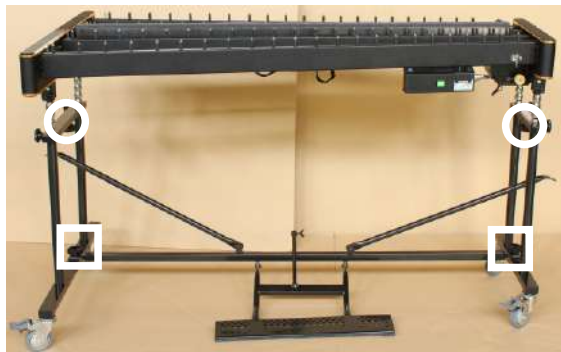
2 ペダルの取り付け

2 本体部を起こし、ペダルの取り付け

本体を起こした状態



ペダルの取り付け



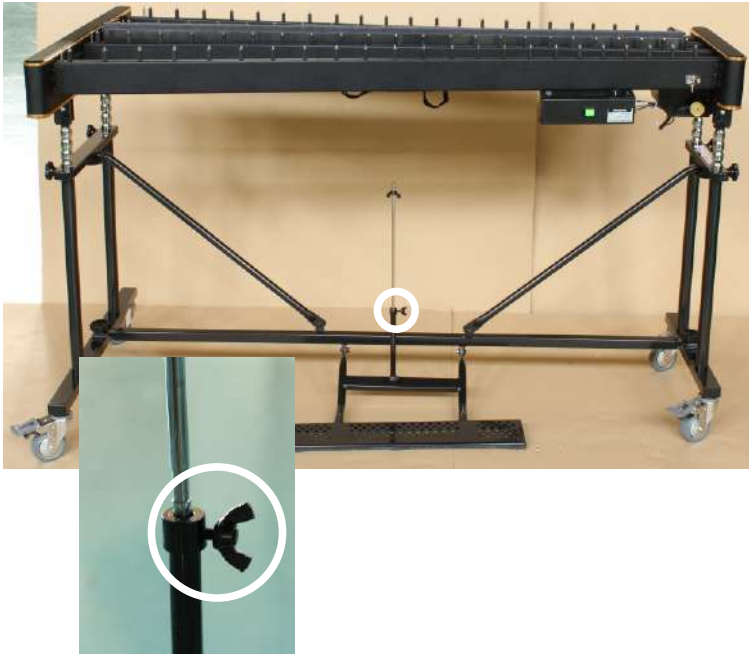
- 水平な場所で本体部を起こします。重量がありますので、2人以上で起こしてください。
- ペダルの向きに注意して、□印の2か所のノブボルトに、ペダルの切り欠き部を嵌め込みます。はめ込んだらぐらつかない程度にノブボルトを締めていきます。
- □印を締めたら、次に○印の2か所のノブボルトに、ペダル筋交いの切り欠きを嵌め込んでいきます。こちらもぐらつかない程度に締めます。
- 4か所すべてをしっかりと増し締めします。

3 ロッドの接続

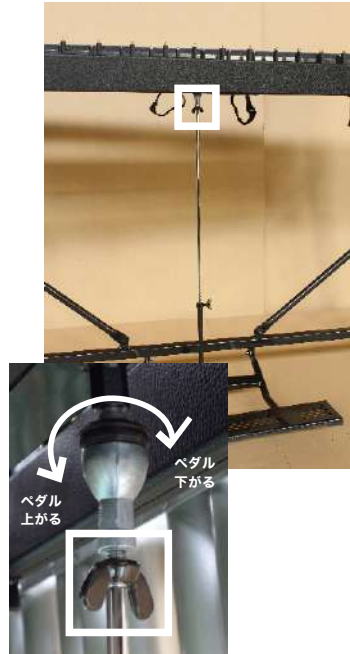
Assembly Method of Concert Vibraphone

3 ロッドをペダルにはめ込み、リンクボールと接続

ペダルとの接続



リンクボールへの接続



- ロッドをペダルに差し込み、その状態のままロッドの上端(蝶ナットのある側)をリンクボールにねじを回しながらはめ込み、半分ほど締めます。
- リンクボールとロッドの切込みの位置で、ペダルの高さを合わせていきます。ロッドの最も切込みの深い場所に合わせて、ペダルのロッド受け部(○印)の蝶ネジを締めます。ロッドを上下させながら確実に深い切込み位置で締めてください。
- 蝶ネジを締めたら、リンクボールを左右に回して微調整を行います。ペダルの張りを強めたい(ペダル位置を上げたい)場合は、リンクボールを左に、逆に緩めたい場合は、右に回します。ペダルの踏み込みを確かめながら行ってください。
- 位置が決まったら、ペダルを軽く押して外れないことを確認してください。最後に□印のロッドについての蝶ナットを締めて完全に固定します。
- PV2000GLにはロッドは付属していません。ワイヤーを右図のようなリンクボール先端のフックとペダル側のフックの両方に引っ掛けて使用します。ペダル側フックは付け根側が標準のテンションとなり、より強いテンションが必要な場合は先端側のフックを使用してください。微調整はロッド型同様、リンクボールにて行います。



4 共鳴管の装着

Assembly Method of Concert Vibraphone

4 半音側は、共鳴管をフレームの下からくぐらせるように装着

高音部の入れ方



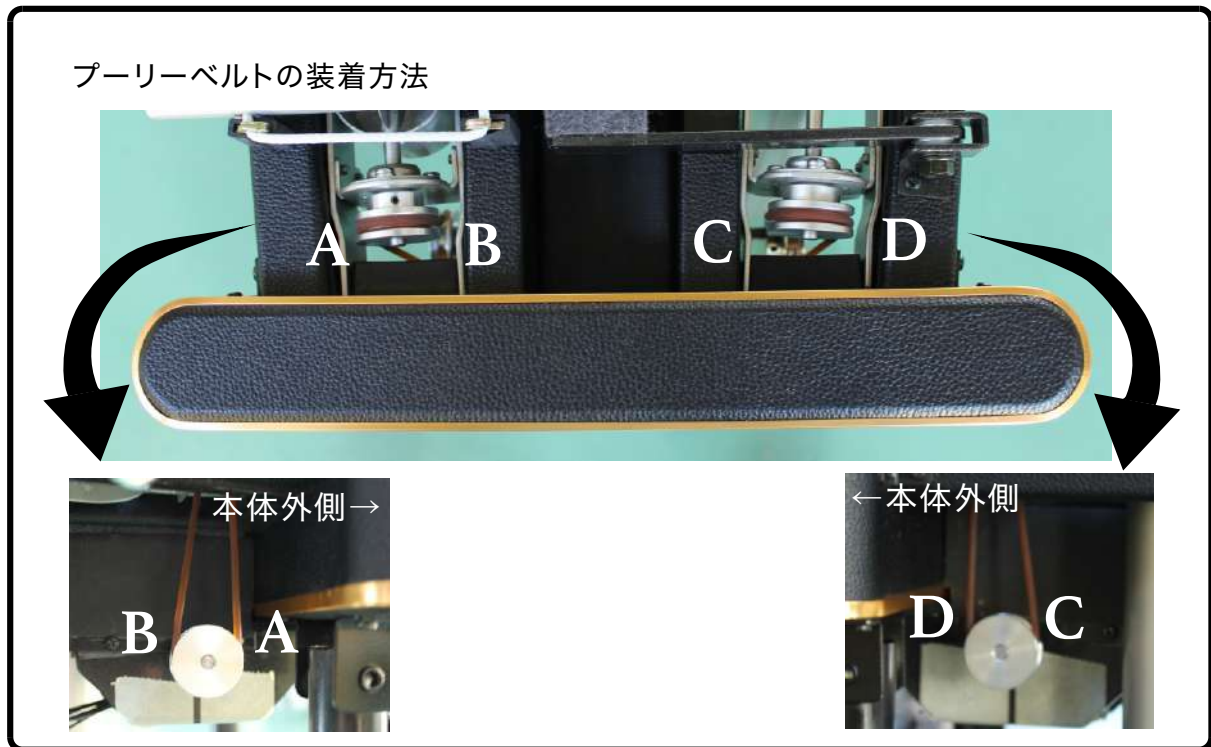
低音部の入れ方



- 幹音側の共鳴管を水平に保ったまま、上から差し込み、受けゴムに嵌め込みます。
 - 半音部の共鳴管は、上からではダンパーに引っかかるため、下から差し込みます。写真のように共鳴管を斜めにして、高音部の受けゴムに引っ掛けます。角度をつけないと、□で示したダンパー部にぶつかる場合があります。
 - 高音部を引っ掛けたまま、共鳴管の低音部を持ち上げ、フレーム低音側の受けゴムの間(○印)を一度下から上に通して、上から受けゴムのスリットに嵌め込みます。
- ※ 共鳴管を差し込む際に、モーター部や鉄脚部に当たってダメージが発生する可能性がありますので、2人以上での作業をお勧めいたします。

5 プーリーベルトの装着

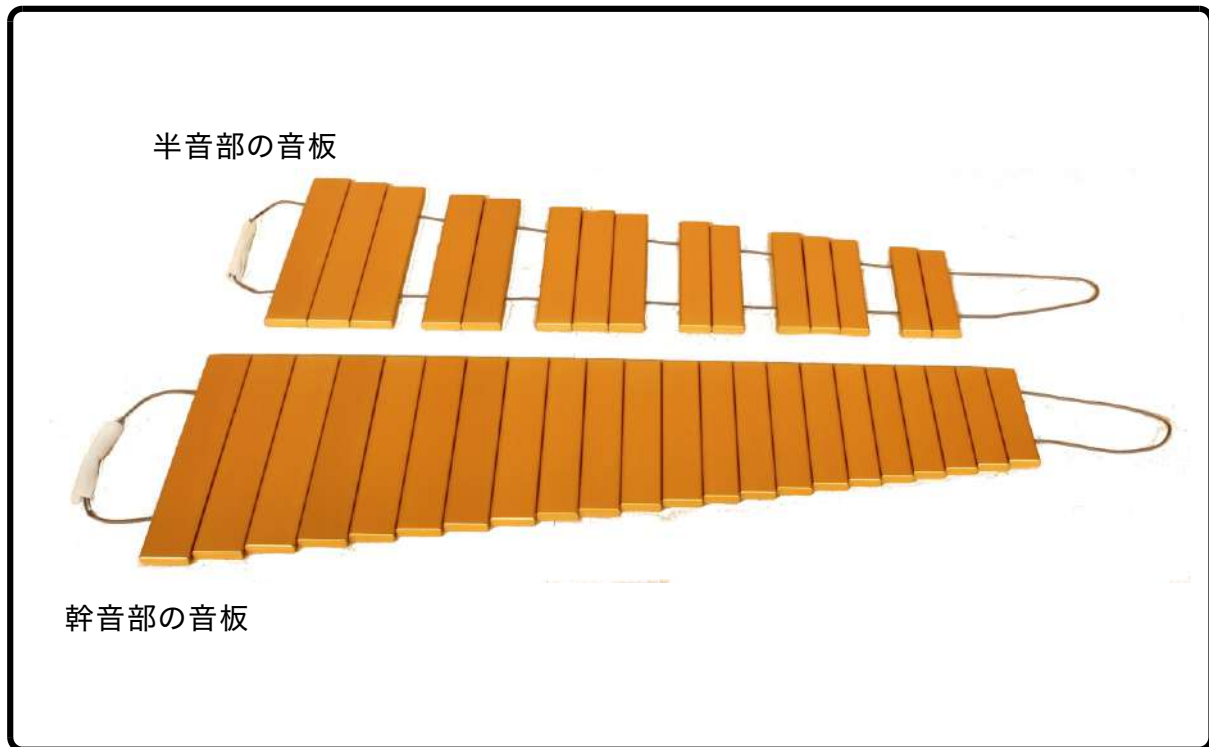
5 プーリーベルトは、90度ねじるように装着



- プーリーベルトを共鳴管側とモーター側のプーリー（滑車）にそれぞれ接続します。
- 共鳴管側のプーリーの溝にしっかり入るよう、プーリーベルトを差し込みます。軽く引っ張りながら90度捻って、モーター側のプーリーの溝に嵌め込みます。
 - ※ 図中のA、B、C、Dの位置がそれぞれ対応するようにベルトを掛けます。高音側を上から見た視点では、AとDが手前側に来ます。
 - ※ KV800にはマルベルト、それ以外の機種にはジャストストップ機構利用のためのタイミングベルトが付属しています。
 - ※ PV2000GL用のタイミングベルトは、フレーム形状の都合上、他の機種のものより短いものを使用しています。紛失等でベルトのみご注文いただく際は、ご注意ください。

6 音板のセット

6 幹音部の音板を先に、バネに軽くテンションが掛かる程度

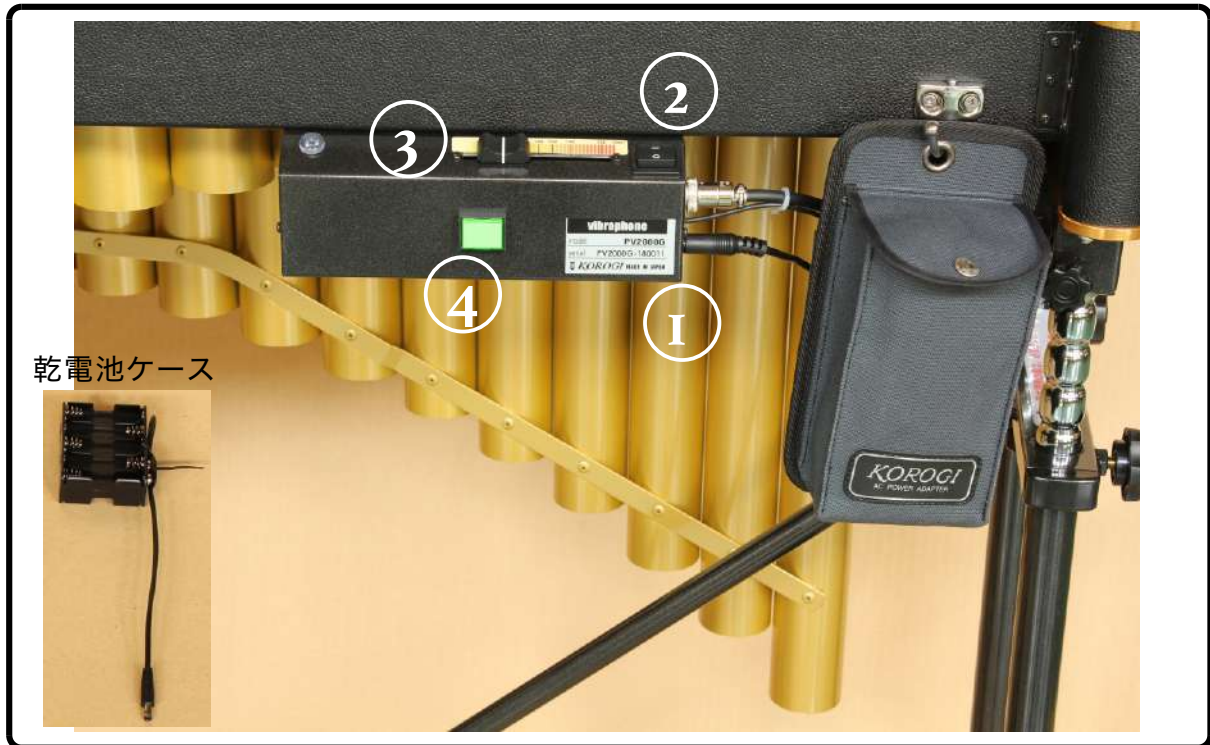


- 幹音部の音板を先に載せます。やや高音部よりの位置に載せるとスムーズです。
- 高音部の端ピンに紐を掛け、低音側から順番に音板をセットしていきます。並べ終わったら紐の両端を持ち、強く均等に引っ張りバネを引っ掛けます。バネに軽くテンションが掛かるくらいの状態がベストです。
 - ※ 緩く感じられる場合や、きつすぎて締まらない場合は、バネの中の紐の結び目の位置を変えてください。
- 同じ要領で半音部の音板を載せます。
- 音板セット後は試奏を行い、音板、ダンパー、共鳴に問題がないかをご確認ください。

7 電源の接続と操作方法

Assembly Method of Concert Vibraphone

7 DCプラグを端子に差し込み、電源を入れる



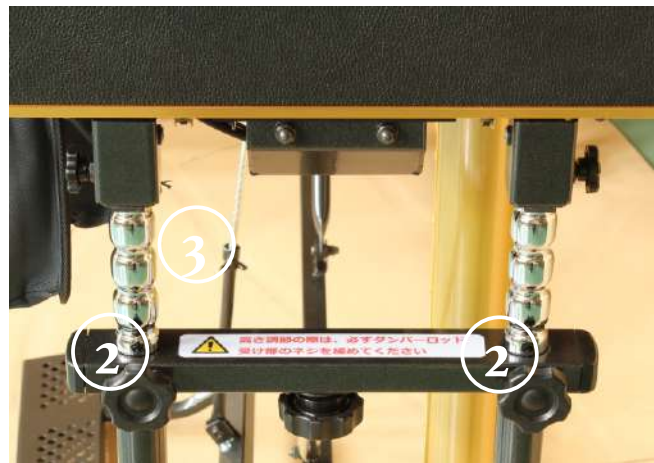
- アダプターケースの中から電源アダプターを取り出し、DCプラグを①のコントローラーボックス横の端子に接続します。
- ACプラグをコンセントに差し込みます。フレームの脚部にコードを一度巻き付けてから差し込むと、プラグ抜けの防止になります。
※ 純正品以外の電源アダプターの使用は故障の原因となる恐れがあります。
- コントローラーボックス右上の電源(②)をオンにし、緑色のスイッチ(④)を押すとモーターが始動し、共鳴管ファンの回転が始まります。
- ファン回転中は③のスピードレバーで回転速度の調節が可能です。レバー上部の目盛りの数値は、1分間のファンの回転数を表します。
- 回転を停止させるには、回転中に④のスイッチを1回押します。回転始動時のファンのポジションで停止します(ジャストストップ機能)
- 乾電池ケースを使用すれば、電源のない場所でもファンを回転させることができます。
- 乾電池ケースに単三乾電池9本を入れ、①の端子にACアダプターの代わりに差し込みます。電源オン/オフ、回転数調節、停止方法は、ACアダプターでの使用時と同じです。

8 ジャストストップ機構と組立後の高さ調整について

ジャストストップ機構



組立後の高さ調整について



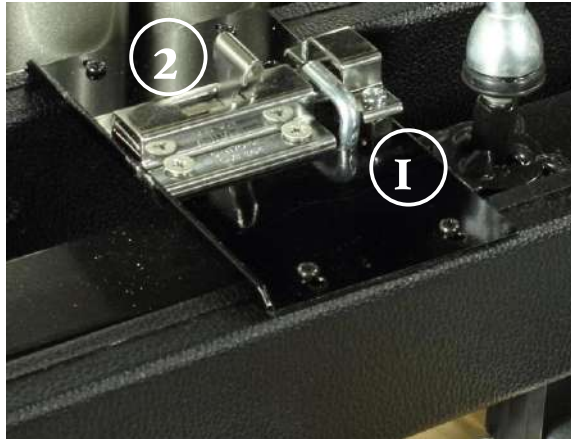
- PV3000、2000シリーズ及びPV1000Gには、ジャストストップ機構を搭載しており、回転を停止する際、ファンを回転の始動時のポジションで停止させることができます。このため、回転の始動前にファンの傾きを変えておくことで、任意の位置でファンを停止させることができます。

※ ファン停止状態で演奏する場合も、ファンの傾きにより共鳴管の開放度合いが変わるため、音の響きがそれに応じて変化します。
ファンが地面に垂直な向き … 共鳴管が開放され、最も響く状態
ファンが地面と平行な向き … 共鳴管が塞がれ、共鳴の少ない状態
また、ファンは斜め位置での固定も可能です。

- PV2000GL以外のモデルには、5段階のねじ止め式高さ調節機構が備わっています。脚が立ち上がった状態で高さ調整を行う場合は、必ず2人以上で行ってください。
- 最初に、③のダンパーロッド受け部のネジを緩めてください。ダンパーロッドを固定したままで高さの調節を行おうとすると、ロッドが曲がったり折れたりする恐れがあります。
- ②のノブねじを左右両方緩め、フレームの上部を持ち上げながら高さを変更します。ノブねじを緩めると急に大きな重量がかかりますので、落下等にご注意ください。目的とする高さまで銀色のスライドパイプを上下させ、溝に合わせてノブねじを締めます。
- 写真は高音側ですが、低音側も同じように高さ調節を行います。なお、低音側と高音側の高さは必ず同じ位置になるようにしてください。

9 ダンパー解放機構について

9 2タイプ(スライド式/ねじ式)のダンパー解放機構



↑ スライド式ダンパー解放機構
(PV3000,2000,1000)

↓ ねじ式ダンパー解放機構
(KV800,700,400)



- KOROGIのビブラフォン/立奏鉄琴には、本体の下側(桁の裏側のリンクボール付近)に、ダンパーを解放状態でキープするための仕組みが備わっています。
- PV3000、2000シリーズ及びPV1000Gには、スライド式ダンパー解放機構を搭載しており、ペダルを踏んでダンパーを開放した状態でロックを掛けて固定することが可能です。
- ダンパーペダルを踏むと①のL字型フックが下に動きますので、②のスライドレバーの位置より下になったところで、スライドレバーを動かすと、ダンパーが引っ張られ、解放状態で固定されます。
- KV800G以下のモデルには、ねじ式のダンパー解放機構が備わっており、③のねじを締めることで、ダンパーを開いた状態でキープすることができます。
- 演奏途中などの短い時間でダンパー解放をすることは難しいため、ダンパー解放機能を使用する場合は、予めネジとワッシャーを締め直しておいて、解放状態で固定しておくことをお勧めいたします。

※ 短い時間で瞬間的にダンパー解放をする必要がある場合は、スライド式ダンパー機構のほうが適しています。

- ご購入時は、ダンパー解放状態(『スライドロックがオン』、『またはねじが締まった状態』)になっています。この状態ではダンパーが動作しないため、ご使用前に『ロック解除』、または『ネジとワッシャーの取り外し』を行ってください。